

# 「歌舞伎」の魅力を知る [演目・役柄編]

歌舞伎の演目は400以上ありますが、現在よく上演されているのはそのうちの100ほどと言われています。江戸時代の庶民に起きた事件や、はるか昔の時代劇など誰もが楽しめる内容と、善人も悪人も魅力たっぷりに描かれたキャラクター性などが、現代でも大きな人気を得ている要因です。

## 娯楽性の高い破天荒なストーリー



歌舞伎は、江戸時代の庶民の暮らしを描いた「世話物」と、江戸時代より前の武家社会を描いた「時代物」に大きく分けられます。人気の演目は、破天荒なストーリーで時代考証もめっちゃくちゃ、御都合主義の展開が多いのですが、そこはあまり重要ではありません。実在の人物やできごとなども出てきますが、史実に即さず脚色が加えられるなどして、ほぼオリジナルの物語になっています。武家騒動や仇討ち、勧善懲悪ものやメロドラマ、怪談など、現代に通ずるバラエティに富んだテーマのものが多く、とにかく分かりやすく面白ければいいという世界です。

## 善人も悪人も女性もさまざま



歌舞伎では、人物の役をタイプ別に分けたものを「役柄」と呼びます。役柄には、善人や男性役の「立役（たちやく）」、女性役の「女方（おんながた）」、悪人役の「敵役（かたきやく）」などがあります。この3つの役柄は、それぞれ特色あるキャラクターとして、さらに細かく分類されます。

立役では、見た目が派手な正義の味方「荒事（あらごと）」や、育ちのいいおぼっちゃん「和事（わごと）」、敵役では、大悪人の「実悪（じつあく）」や美男子の「色悪（いろあく）」、女方では、優雅な「赤姫（あかひめ）」や庶民の「娘」、「世話女房」など、さまざまな役柄があります。

### 鑑賞するならまずはコレ

#### 義経千本桜（よしつねせんぼんざくら）

源平合戦を題材にした時代もので、歌舞伎三大名作の一つです。

源平の合戦後、都を追われた義経と、実は生きていた平家の3人の武将との復讐劇と、義経を慕う静御前とその家来、狐忠信が繰り広げる愛情豊かなファンタジーが重なる壮大な物語です。

登場人物が多く見せ場満載で、見応えのある作品です。



#### 助六由縁江戸桜（すけろくゆかりのえどざくら）

歌舞伎の十八番の一つで、通称「助六」と呼ばれる人気作品です。

江戸一番の美男子で吉原でもてまくりの助六は、喧嘩し放題の暴れん坊です。助六の恋人で、強い相手に臆せず悪態をつくスーパー花魁「揚巻」など、派手で豪華、個性豊かで魅力的なキャラクターたちが、江戸の町を舞台に爽快な物語を繰り広げます。



## 歌舞伎こぼなし

### 実は○○という驚きの設定

歌舞伎の世界は、実は○○という展開が大好きです。演目には、船頭実ハ郎党源五というように、△△だと思わせておいて実は○○という書き方の役が多く見られます。

上記の『義経千本桜』にも、佐藤忠信実ハ源九郎狐という役が登場します。義経の家臣・佐藤忠信だと思っていた人物が、実は狐だったという設定です。ほかの作品にも、町娘が実はお姫様、船頭が実は武将など、驚きの設定が当たり前のように多用されます。

“実は”を演じる役者は、まったく違う二役、ときには三役を演じ切ります。正体を明かす前に本当の姿を匂わせるような演技をすることもあり、これがまた歌舞伎の見どころのひとつになっています。